

今泉の

子育て桜地蔵さん

平成元年七月五日号

吉原二中の前を西に数分歩くと、子育て桜地蔵があります。今回は、このお地蔵さんの話を今泉・鍛冶町三の杉山繁次郎しげしじろうさんに教えていただきました。

村人に好かれたおじいさん

昔は今泉七丁目の愛鷹神社より北側は一面の畑でした。桜地蔵さんのある場所は墓地になっていて、そこに、墓守はかもりのおじいさんが住んでいました。おじいさんは人がよく、酒が

好きで、たくさんの村人から好かれていました。

おじいさんは、

墓の草を取ったり、

掃除をしたりよく

働きましたが歳に

は勝てず、あると

き寝込んでしま

いました。おじい

さんは自分の最期を

悟ったのか亡くなる直前に「わしが死んだら、

せめて酒を供えてくれ、きつと子どもたちが

丈夫に育つよう守るから」と言い残しました。

桜の根元に祭る

村人たちはおじいさんの気持ちをよく、お地蔵さんをつくりました。そして、墓地の隅にあった樹齢何百年かの桜の大木の根元に



▶ 桜地藏さんのお堂（平成十四年一月撮影）



祭り、お酒を供えるのを忘れませんでした。その後、村の子どもたちが元気に育つので、村人たちはおじいさんの徳をありがたく思い、だれ言うともなく桜地藏さんと呼ぶようになりました。

よだれかけに願かけ

杉山さんは昭和の初めから現在の様子を「よだれかけに名前を書いて、お地藏さんにかけて、夜泣きや虫封じに効くと言われ、昭和の初めごろは何十枚もよだれかけをしていました。今でもよだれかけをかける人があります。清水や蒲原など遠くからも来ますよ。祭りは八月二十四日に行っています。桜の老木が枯れてしまったのが残念です」と話してくれました。

語ってくれた方

杉山繁次郎さん